これからの学校教育
実践事例

様々なオンラインツールを活用し、日常を維持しながら、新しい教育を創る

広島県立広島国泰寺高校

大学、企業、国際機関、そして、県内の他校などと協働した高度な学びを追究する広島県立広島国泰寺高校。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業の中で、教育活動をどのように維持・発展させていったのだろうか。オンラインツールの活用に焦点をあて、同校の取り組みを紹介する。

新しい価値を創出する資質・能力を育む

文部科学省のWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（以下、WWL＊1）の拠点校である広島県立広島国泰寺高校は、平和をテーマにSDGs（＊2）と関連づけた活動を展開し、グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成を目指している。同校が生徒への育成を目指す資質・能力として掲げているのが、「課題を発見する力」「課題を解決する力」「論理的・批判的思考に基づく表現力」の3つだが、佐藤隆吉（りゅうきち）校長は、「WWLの取り組みを通じて、知識・技能はもとより、言語・コミュニケーション能力、イノベーション、オープンマインド、グリットといった、変化の激しい社会を生き抜くために必要な資質・能力を生徒に育成していきたい」と語る。

「これからの社会では、幅広い知識を活用して新しい価値を生み出す力が求められますが、新しい価値の創出に至る道は平坦ではなく、多様な他者と協働して創意工夫を重ねることや、粘り強く取り組むことも不可欠です。WWLの取り組みを始めとする本校の教育活動の中で、生徒は文理両方を学び、そこで身につけた幅広い知識を探究活動などで実際に活用することで、課題発見と最適解の提案を、3年間の高校生活で経験します」（佐藤校長）

「総合的な探究の時間」などにおける校外の多様な人々との交流を取り入れた課題研究、そして、様々な社会課題に取り組む文理融合科目「グローバル平和探究」（普通科2学年対象）などでの学びを通じて、生徒は自分の興味・関心を、平和という切り口で深めていく。その成果は既に教師の目から見ても明らかで、「高校在学中に哲学を学びたい」「生命倫理の研究者にインタビューしようと思っている」などと、高校の教科・科目の枠を超えた学びへの意欲や具体的な計画を口にする生徒が増えてきている。

新しい時代の高校生像を体現する生徒が現れてきた矢先、同校も新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業を強いられた。そうした中でも、生徒の学びを継続・発展させる上で大きな役割を果たしたのが、オンラインツールだった。

オンラインツールの活用で学校の日常を維持する

同校のオンラインツールの活用の特徴は、「生徒がやるべきこと」を支援するツールと、「学校がやるべきこと」を支援するツールとに、役割を分けて活用したことだ。

臨時休業期間中の課題配信など、主に学習面で「生徒がやるべきこと」を支えたのは、2020年度より、オンライン上での学習基盤として県内の公立小・中学校、高校、特別支援学校に整備されたGoogleの教育支援クラウドサービス「G Suite for Education」だ。

同校では、臨時休業期間中のオンライン授業の時間割を作成したが、その際、生徒の主体性が発揮されるように配慮したと、主幹教諭の大川敬洋（たかひろ）先生は説明する。

「私たちは臨時休業を、それまで

＊1 将来、イノベーティブなグローバル人材を育成するため、高校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築するとともに、テーマ等を通じた高校生国際会議の開催等や高校のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成により、WWLコンソーシアムにおける拠点校を目指す事業。
＊2 Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

の教育活動で生徒に育んできた主体性をさらに伸ばす好機だと考えました。そこで、授業の時数は本来の時数の75％ほどに抑えて終業時刻を早め、生徒が自分に必要な学習に取り組めるよう、生徒に時間を返しました。時間割は学年ごとに全クラス共通のものを作成し、配信する学習課題も教科内で同じ内容にすること

校長
佐藤隆吉
さとう・りゅうきち
教職歴38年。同校に赴任して3年目。

主幹教諭
大川敬洋
おおかわ・たかひろ
教職歴27年。同校に赴任して5年目。理科。

で、授業準備にかかる教師の負荷の軽減を図りました。そして、それによって生まれた時間は、オンライン授業を欠席した生徒への個別対応や、学習内容の理解が十分ではない生徒へのフォローなどに充て、生徒の自律的な学習を支えたのです」

オンラインツールの活用によって、臨時休業中もシラバス通りに授業を進めることができた同校だが、今後の課題は臨時休業中の学習内容の定着度を測り、個々の学習支援計画へとつなげていくことだと言う。

生徒のアセスメントデータの蓄積という「学校がやるべきこと」を支えたオンラインツールは、「Classi」（＊3）だ。同校では、Classiを、生徒のポートフォリオの蓄積、日々の学習時間や各種アンケート管理、そして保護者への連絡などに活用している。

「生徒にとってClassiは、自分の学習計画、学習時間を管理することを通じて、自律的に学習する力を養う場となっています。それに加えて、生徒たちはZoom（＊4）などのオンライン会議ツールを使って、外国人留学生との対話を『グローバル平和探究』の中で行うなど（**写真**）、世界を視野に入れた学習に主体的に取り組んでいます」（大川先生）

今回の臨時休業のような非日常が現れた時に、教育活動を止めないためには、複数のツールを持っておくことが重要だと、佐藤校長は語る。

「それまでの対面授業では積極的に発言することがなかった生徒が、オンライン授業で能動的な学習態度を見せてくれることがありました。資質・能力を発揮することができる環境や場面は生徒によって異なることを、私たちは学びました。多様なオンラインツールを活用したことで、学校としての日常を維持するだけでなく、新しい学びの場づくりの必要性に気づくことができました」

同校では今後も、オンライン上での学習プリントや実験動画などの蓄積を続け、授業では生徒同士の対話に時間をかけるなど、反転的な授業づくりにチャレンジしていきたいと考えている。

「ICTは、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の育成、そして、学校でしかできない学びの保障を実現する上で欠かせないツールだと思っています」（佐藤校長）

写真 「グローバル平和探究」では、Zoomを活用して留学生と環境問題をテーマに意見交換を行った。世界の今をリアルタイムで知ることで、生徒のテーマへの意識も高まっていく。

図 臨時休業中のオンラインツール活用

❶自分自身の健康観察は、朝のＳＨＲまでに「Classi」の「アンケート」を利用して行う。
❷朝のＳＨＲや授業の出席確認は、「G Suite」の「Classroom」にログインして行う。
❸授業は、「G Suite」の「Classroom」の機能を使って出される教師の指示に沿って受ける。授業中の質問も可能。
❹放課後の学習時間は、毎日「Classi」の「学習記録（１日の振り返り）」に入力。担任が生徒の学習の進捗状況や心身の状態を把握する。

＊学校資料を基に編集部で作成。

広島県立広島国泰寺高校

◎広島県初の旧制中学である広島県中学校として設立。その後、広島県広島中学校、広島県第一中学校、広島県立鯉城（りじょう）高校などと名称を変えながら、140年を超える歴史を刻む。アメリカやイギリスの高校との姉妹校提携を中心とした国際交流にも力を入れている。
◎**設立** 1877（明治10）年
◎**形態** 全日制・定時制／普通科・普通科理数コース／共学
◎**生徒数** 1学年約280人
◎**2020年度入試合格実績（現役のみ）** 国公立大は、筑波大、大阪大、広島大、九州大などに159人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ496人が合格。
◎**URL** http://www.kokutaiji-h.hiroshima-c.ed.jp/

＊3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。
＊4 PC・スマートフォン・タブレットで通話に参加できるビデオ通話アプリ／サービス。